

耕作放棄地の復田が生物相に与える影響

13108059 北畠友理 13108155 渡邊真衣

背景

減反政策や労働力不足により近年耕作放棄地が増加しかし、水田には生物相保全機能などがあるとされており復田による生産と水田生態系の回復が期待されている

目的

復田を行うことで生物相に
どのような影響を与えたか調査
数年単位でどのように変化が見られるか観察

↓
1年目では施工前後での生物相の比較調査

生物環境科学センター(CNES) 西側

調査地区



調査地



施工後の調査地



調査および解析の方法

植生調査

- ・ 被度
- ・ 群度
- ・ 草高

● 相対優占度 (P)

$$= (\text{被度相対値} + \text{草丈相対値}) / 2$$

(コドラート(1m×1m)ごとに構成種の相対優占度を算出)

● 多様度指数(H')

$$= -\sum P_i \log_2 P_i$$

(Shannon-Wienerの多様度指数を算出)

水生動物調査

- ・ 種数
- ・ 個体数

● 多様度指数(H')

$$= -\sum P_i \log_2 P_i$$

(Shannon-Wienerの多様度指数を算出)

調査・作業計画

4~6月 水田の施工(施工済み)
7月 調査(夏)
9月 落水・調査(秋)
11~12月 調査・分析(冬)
主に季節ごとに植生・水生植物の調査
環境要因(土壌・水質)の調査も適宜実施

